令和4年度吉井小学校学校評価（結果）

学校教育目標
一人ひとりに笑顔あふれ，自ら学び，心豊かにたくましく生きる子どもの育成

重点項目１
ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

保護者アンケート1	子どもは，基本的な学習内容を理解し，学年に応じた学力が身についている。	教職員 自己評価1 学力向上	学級や個々の児童の実態を把握し，指導方法や教材を工夫し，自らの授業力向上に取り組んだ。	児童アンケート1	1，2年	学校の　べんきょうは　よくわかる。
					3，4年	授業の内容はよくわかる。
					5，6年	授業の内容はよく分かる。

1	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	67.3%	28.8%	3.8%	0.0%	0.0%	3.6	0.1
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.7
保護者	39.2%	52.9%	7.8%	0.0%	0.0%	3.3	0.0

全学年において、授業における学習目標の提示や学習態度（話し方や聞き方等）について共通理解を図り、児童の主体的な取組を重視しながら学習を進めている。また、一人一人の学習状況を見取りながら、個別指導を丁寧に行うことに徹してきたが、学習内容によっては定着が不十分であることや、学んだことを生かす問題解決能力の育成においてはいくつか課題が見られる。つけたい力と実際についた力の検証を都度行い、一層の学力向上を目指したい。

保護者アンケート2	子どもは，家庭で本や新聞を読んでいる。	教職員 自己評価2 読書活動	読書環境を整え，学校図書館サポーター等との連携を図りながら，児童の読書習慣の形成や読解力の向上等に取り組んだ。	児童アンケート2	1，2年	まいにち，本を読んでいる。
					3，4年	毎日，本や新聞を読んでいる。
					5，6年	毎日，本や新聞を読んでいる。

2	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	21.2%	38.5%	26.9%	13.5%	0.0%	2.7	-0.3
教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6	0.6
保護者	31.4%	31.4%	37.3%	17.6%	0.0%	2.4	0.0

図書館サポーターが、本校の図書室にある本について、より児童が手に取りやすいようにと解説文やポップを作成し本棚を工夫している。また、朝の活動の時間やステップアップの時間に、「おはなしひろば」の皆さん、図書館サポーターに読み聞かせをしていただいた。その結果、児童の読書の幅は広がったように思われる。一方で、読書が習慣化している児童とそうでない児童に分かれている実態が見られる。日常的に新聞や本を読む時間を確保することや授業において関連本の並行読書を行うなどの手立てを工夫し、児童が読むことを生活に取り入れる環境づくりに引き続き努めたい。

保護者アンケート3	子どもは，人の話をよく聞き，自分の考えを言うことができる。	自己評価3 探求的な学習 体験的な学習	指導の目標を設定し，見通し・学び合い・振り返りの三つの視点に立った授業の実践に取り組んだ。	児童アンケート3	1，2年	ともだちのいけんをよくきき　じぶんのかんがえをいうことができた。
					3，4年	人の話をよく聞き，よく考え，その考えを他の人に伝える努力ができた。
					5，6年	人の話をよく聞き，よく考え，考えたことを整理して分かりやすく発表することができた。

3	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	28.8%	44.2%	23.1%	3.8%	0.0%	3.0	0.0
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	0.4
保護者	5.9%	78.4%	15.7%	0.0%	0.0%	2.9	-0.1

友達との話合い活動や自分の考えを表現することへの意欲は高いが、学習課題や相手意識、目的意識に沿った対話的な活動は十分でない。そこで、課題に対して一人一人が自分の思いや考えをしっかりともつ学習活動、児童の有用感を高める表現活動の場をより一層工夫したい。また、日頃から互いに聞き合うことを大切にし、日常生活で使える豊かな言葉の引き出しを増やすことにも留意しながら、指導を行いたい。

保護者アンケート4	学校は，タブレットなどのICT機器を活用した授業に取り組んでいる。	教職員 自己評価4 情報化・ グローバル化	GIGAスクール構想により，指導環境が向上したと思う。	児童アンケート4	1，2年	タブレットやテレビをつかった　じゅぎょうは　わかりやすくかんじる。
					3，4年	タブレットなどのICT機器を使った授業は分かりやすく感じる。
					5，6年	タブレットなどのICT機器を使った授業は分かりやすく感じる。

4	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	53.8%	32.7%	7.7%	5.8%	0.0%	3.3	-0.4
教職員	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.7
保護者	35.3%	60.8%	3.9%	0.0%	0.0%	3.3	0.1

児童はタブレットの操作に随分慣れ、ICT機器を活用して自分の考えを表現したり、友達と交流したりする力が身に付いてきている。授業のほか、家庭においても活用する機会が増え、学習ツールの一つとして定着しつつある。今後は、学習内容や授業形態に最適かどうかを見極めながら、幅広いコンテンツや様々なツールを活用した学びの機会を増やしていく必要がある。同時に、プログラミング教育も推し進め、情報活用能力や論理的思考力の育成を図れるようにしたい。

重点項目2
互いの人権を尊重し、安心して過ごせる教育環境を確保するための人権教育の推進

保護者アンケート5	子どもは，思いやりや友達を大切にする心が育っている。	教職員 自己評価5 人権教育	人権教育年間指導計画に基づき，計画的・継続的に人権教育に取り組んだ。	児童アンケート5	1，2年	人が　こまっているときは，すすんで　たすけている。
					3，4年	人が困っているときは，進んで助けている。
					5，6年	人が困っているときは，進んで助けている。

5	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	50.0%	42.3%	7.7%	0.0%	0.0%	3.4	0.0
教職員	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.6
保護者	51.0%	49.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.1

異学年の交流を図る縦割り班活動では、6年生が中心となり互いを思いやりながら活動する様子が見られる。今年度は、幼稚園の園児たちと遊ぶ「こいのぼり集合Day」の時間もつくり、交流を深めている。日頃から挨拶や相手への声かけが自然とできる児童が多く、温かなやりとりが様々な場面で見られる。自他の違いを認め合い、分け隔てなく支え合う実践力を育て、よりよい関係をともに築いていけるよう、計画的・継続的に取り組んでいきたい。

保護者アンケート6	家庭で，人権問題や人権学習について話し合うことがある。	教職員 自己評価6 家庭人権啓発	自らの人権感覚を磨き，人権尊重社会の実現に向け保護者啓発に取り組んだ。	児童アンケート6	1，2年	道とくの　時間に　学習したことを　家の　人と　話すことがある。
					3，4年	学校での人権や道徳の学習について家の人と話すことがある。
					5，6年	学校での人権や道徳の学習について家の人と話すことがある。

6	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	30.8%	23.1%	30.8%	15.4%	0.0%	2.7	0.1
教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6	0.7
保護者	13.7%	45.1%	35.3%	5.9%	0.0%	2.7	0.1

今年度は、毎月第1日曜日の「家庭人権学習の日」に、人権学習や道徳の時間に学習した内容について、家庭で話し合う時間をもってもらうように協力をお願いした。人権通信も定期的に発行し、児童の活動の様子や保護者から発信された内容等を共有したが、アンケートの結果は、「そう思う」「ややそう思う」が6割程度にとどまった。取組の実際について評価し、より一層家庭と連携を図りながら人権教育を推進していく方策を吟味する必要がある。

保護者アンケート7	子どもは，生命を大切にする心や社会のルールを守る態度が育っている。	教職員 自己評価7 道徳教育	道徳教育年間指導計画に基づき，「考え議論する道徳」の授業に取り組んだ。	児童アンケート7	1，2年	道とくの　時間に，友だちと　考えたり，話し合ったりしている。
					3，4年	道徳の授業で学んだことや心に残ったことを生活の中にいかそうとしている。
					5，6年	道徳の授業で学んだことや心に残ったことを生活の中にいかそうとしている。

7	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	36.5%	50.0%	7.7%	5.8%	0.0%	3.2	0.1
教職員	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.9
保護者	41.2%	56.9%	0.0%	0.0%	1.7%	3.4	0.0

日常において「学校のきまり」を共有し指導を行うとともに、道徳の時間では、道徳的な問題について児童が多様な視点から話し合い、自分との関わりの中でその価値を学んでいくことを重視し取り組んでいる。アンケートの結果から、教材の中の学びで終始している児童が少なからずいる。自分や自分の生活に広げて考え、実践意欲がもてるように学級経営を踏まえた道徳教育の充実を図りたい。

保護者アンケート8	学校は，一人ひとりが安心して過ごせるよう，いじめの根絶に取り組んでいる。	教職員 自己評価8 いじめの根絶	人権を尊重した言動で範を示し，いじめの根絶に向けた教育，仲間づくり，いじめの早期発見，対応に努めた。	児童アンケート8	1，2年	いじめは，いけないことだと　思う。
					3，4年	いじめは，どんな理由があってもいけないことだ。
					5，6年	いじめは，どんな理由があってもいけないことだ。

8	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	94.2%	3.8%	1.9%	0.0%	0.0%	3.9	-0.1
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.5
保護者	33.3%	62.7%	3.9%	0.0%	0.0%	3.3	0.1

いじめの定義に則り，されたり言われたりして嫌な思いをしたことがあれば，いじめであるという意識と，いじめはどこにでも起こりえることであるという危機意識をもって，いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めた。「あまりそう思わない」の回答があったことは、十分な取組ができなかったことの結果であると反省し、いじめは決して許されないことであるという認識を深め、児童一人一人が大切にされているという実感がもて、安心して過ごせるように，粘り強く指導していきたい。

重点項目3
児童一人一人のよさや可能性を認め高めていく、ポジティブな行動支援の実践

保護者アンケート9	先生は，子どもが学習や生活に困難を感じている時，適切に対応してくれる。	教職員 自己評価9 児童理解	一人一人のニーズに合った教育的支援や配慮を提供するとともに，困難を感じている児童に対して真摯に対応した。	児童アンケート9	1，2年	先生は，一人一人を　大切に　してくれる。
					3，4年	先生は，一人一人を大切にしてくれる。
					5，6年	先生は，一人一人を大切にしてくれる。

9	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9	0.1
教職員	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9	0.6
保護者	43.1%	54.9%	2.0%	0.0%	0.0%	3.4	0.2

少人数の学級の利点を活かし，児童一人一人に寄り添いながら個別最適な教育を目指しているが，保護者のなかで、適切に対応していないと感じている方がいることを真摯に受け止めたい。様々な場面において児童を丁寧に見取り、個性を大切にしながら、伸び伸びと学校生活が送れるように見守り、場に応じた適切な支援をしていきたい。

保護者アンケート10	子どもは，将来の夢や目標をもっている。	教職員 自己評価10 キャリア教育	キャリア教育年間指導計画に基づき，児童の社会的，職業的自立に向けた教育に取り組んだ。	児童アンケート10	1，2年	わたしには，ゆめや　やりたいことがある。
					3，4年	自分には，夢や　やりたいことがある。
					5，6年	自分には，夢や　やりたいことがある。

10	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	75.0%	15.4%	1.9%	7.7%	0.0%	3.6	0.2
教職員	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4	0.5
保護者	35.3%	43.1%	21.6%	0.0%	0.0%	3.1	0.0

学校では、児童の発達段階に応じ、一人一人の社会的･職業的な自立に向け、必要な基盤となる資質や態度を育てるキャリア教育を進めている。その一つとして、各教科等との関連を図りながら、様々な分野の専門的な知識を有する方をゲストティーチャーにお招きし、話を聞いたり実際に体験をしたりする学習活動を行っている。実際に見て、触れて、学ぶことで児童が将来に向けての意欲や目標を見い出せるよう、地域や各関係機関と連携を図り取り組みたい。また、児童と保護者の回答率に差があることから、学習をとおして興味をもったことや身近な目標、将来について家庭で話し合う機会をつくってもらえるよう働きかけをしたい。

保護者アンケート11	子どもは自分の健康に気をつけ，運動習慣が身についている。	教職員 自己評価11 健康･体力	児童の発達段階に応じた健康教育や望ましい運動習慣の形成に取り組んだ。	児童アンケート11	1，2年	毎日　あさごはんをたべ　外でしっかりあそんでいる。
					3，4年	毎日，朝ごはんを食べ，体を動かしている。
					5，6年	毎日，朝食を食べ，体を動かしている。

11	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	76.9%	25.0%	1.9%	0.0%	0.0%	3.7	0.1
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.5
保護者	27.5%	49.0%	21.6%	2.0%	0.0%	3.0	0.0

昼休みや長い休み時間は、ほとんどの児童が外で体を動かして遊んでいるが、教室や図書室等で過ごす児童もいる。体育科の授業においては、個々の体力に応じて、運動を楽しむ児童の姿が見られる。保護者の回答を見ると、運動習慣が身に付いていないと感じている方が2割おり、全体としてもやや低い。児童の運動の日常化や体力の向上を実感されていない結果と捉える。体育科をはじめ様々な機会を捉えて、運動による充実感を味わわせるとともに、適切な睡眠や朝食の摂取など、生活習慣の確立についても理解させながら、各家庭との連携を図り、児童の健やかな成長を支援していきたい。

保護者アンケート12	先生は子どもの良いところを認め，伸ばそうとしてくれている。	教職員 自己評価12 人間関係調整力	子どもの自己肯定感を高めるための取り組みや肯定評価に努めている。	児童アンケート12	1，2年	先生は，よいところをほめてくれる。
					3，4年	先生は，よいところを認めほめてくれる。
					5，6年	先生は，よいところを認めほめてくれる。

12	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	73.1%	25.0%	1.9%	0.0%	0.0%	3.7	0.1
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.5
保護者	49.0%	49.0%	2.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.3

昨年度に引き続き、ポジティブな行動支援を学級や学校全体の教育活動に取り入れた。望ましい行動や子ども自身にとって価値を感じられる行動に対して賞賛や承認のことばをかけ、児童の主体性を伸ばすよう取り組んだ。子ども同士においても、嬉しかったことや親切にしてくれたことなどを「ありがとうカード」に書いて認め合う活動をしている。これからも一人一人をよく見取りながら、よりよい生活への意欲の向上が図れるよう支援していきたい。

重点項目4
持続可能な社会を担う児童の育成を目指した地域とともにある学校運営

保護者アンケート13	子どもはふるさとを誇りに思う気持ちが育っている。	教職員 自己評価13 郷土愛	地域の教育資源を活用し、地域の魅力に触れ、ふるさとへの誇りと郷土愛を育む教育に取り組んでいる。	児童アンケート13	1，2年 じぶんがすんでいるところが　すきだ。 3，4年 阿南市というまちが好きだ。 5，6年 阿南市というまちが好きだ。

13	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	80.8%	13.5%	3.8%	1.9%	0.0%	3.7	0.5
教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6	0.5
保護者	35.3%	52.9%	11.8%	0.0%	0.0%	3.2	0.0

今年度も総合的な学習の時間や生活科をはじめ、各教科等において地域の方々にご協力をいただき、充実した地域学習や歴史学習を進めることができた。学年間を見通して、継続的・発展的にふるさと(加茂谷)に学ぶ学習を位置付け、児童が地域の魅力を知り，地域を活性化するための方策を考えることができるように取り組み、地域創生のための人材を育成していきたい。

保護者アンケート14	子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている。	教職員 自己評価14 地域との 連携・協働	学校・家庭及び地域で、自ら進んであいさつや会話ができる子どもの育成に努めた。	児童アンケート14	1，2年 あいさつを　したり，話を　したりすることは　すきだ。 3，4年 進んであいさつをしたり，会話を楽しんだりしている。 5，6年 進んであいさつや会話を行い，人とのつながりを大切にしている。

14	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	69.2%	28.8%	1.9%	0.0%	0.0%	3.7	0.0
教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6	0.2
保護者	31.4%	52.9%	15.7%	0.0%	0.0%	3.2	0.0

「自分から」「大きな声で」「遠くからでも」を合言葉に、気持ちのよいあいさつをしようと学校全体で取り組んでいる。来校者に対しても進んであいさつをする児童もいれば、あいさつなしで通り過ぎたり、聞き取れない声のあいさつになってしまっている児童もいる。朝からしっかりとあいさつができることを目標にし、引き続き指導・支援をしていきたい。

保護者アンケート15	学校は，お便りやホームページなどを通して，学校での教育活動の様子を伝えている。	教職員 自己評価15 家庭との連携 説明責任	教育方針や教育活動，成果等の発信，行事等の連絡により，家庭への適切な情報提供を行い，家庭との連携を図った。	児童アンケート15	1，2年 学校のことを，家で　話す。 3，4年 学校のことを，家で話す。 5，6年 学校のことを，家で話す。

15	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	57.7%	32.7%	3.8%	5.8%	0.0%	3.4	0.0
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.5
保護者	64.7%	31.4%	3.9%	0.0%	0.0%	3.6	0.2

学年だよりや学校だより、ホームページをなどをとおして、日常の学習活動や行事、吉井小ならではの取組について情報を発信した。児童がどのように学校生活を送っているか、保護者に実感してもらえるような内容を掲載することに心がけ、PTA活動や学校運営に関する事柄についても情報を共有し、理解と協力が得られるように努めた。

保護者アンケート16	子どもは交通ルールを守ったり，災害から命を守ったりする態度が育っている。	教職員 自己評価16 防災・安全	児童の生命および安全を守るために，組織的かつ計画的に学校安全，学校防災に取り組んだ。	児童アンケート16	1，2年 とびだしや　むりな　おうだんは　していない。 3，4年 安全や防災の学習を思い出し，命を守る行動ができる。 5，6年 安全や防災の学習を思い出し，命を守る行動ができる。

16	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児　童	55.8%	40.4%	3.8%	0.0%	0.0%	3.5	-0.1
教職員	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	0.4
保護者	58.8%	39.2%	2.0%	0.0%	0.0%	3.6	0.1

各教科等と関連を図りながら防災学習に取り組んだり、防災に関し専門的な知識や技能をもった方を講師としてお呼びし，実践力を培う体験活動を行ったりしている。また、交通安全や地震、防犯に関する訓練では、児童が主体的に身を守り安全に行動できるよう、毎回手立てを工夫しながら実践している。今後も計画的・継続的な取り組みを行い、児童の災害から身を守る意識と実践力を高めていきたい。

教員の業務改善

教職員 自己評価17 業務改善	校務のスリム化、効率化に組織的に取り組み、子どもと向き合う時間の確保並びに教育の質の向上に努めた。

17	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
教職員	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7	0.7

校務のICT化が進み、幾分処理時間が短縮されたものの、未だ紙媒体での処理も多く、授業準備や環境整備、行事や集会の計画や運営等、毎日過密なスケジュールで教育活動に取り組んでいることは否めない。一日のうちで休憩する時間はほとんどなく、ノンストップ労働である。GiGAスクール構想により、教育活動の質の向上が求められるなか、効率化を推進するにも物理的に困難な環境にあり、実現化が難しいのが現状である。

学校運営委員のご意見・ご感想

・２月１２日に実施された学習発表会は、どの学年も一人一人が主役となっている素晴らしい発表だった。また、それぞれの学年の発表を他の学年がしっかりと見聞きし、反応していた。それらの様子から、日頃の学校の児童の学習態度が見て取れる。
・学校評価については、多様な見方があるが、やはり「学力」という課題につながっていく。学習したことが、生きて 働く力となり、学習の場以外で発揮されるよう、取り組んでもらいたい。
・アンケート10の「子どもは、将来の夢や目標を持っている」の結果を見て、子どもたちは保護者が思っている以上に夢ややりたいことを持っているんだなと分かり嬉しく思う。学校でのキャリア教育の推進や外部専門家を授業に招くなどの工夫ある教育活動の成果であると考える。
・アンケート3「子どもは、人の話をよく聞き、自分の考えを言うことができる」については、自分のことを話すことが苦手、あるいは遠慮がちな児童が多いのかなと感じる。学校や家庭でも対話を工夫することが必要であると考える。